

県南教育事務所  
教育情報

# 南風

平成29年2月20日(月)  
No. 15【通巻第106号】  
文責：皆川晃宏

## 各種調査結果を活用した学力保障の取組先進実践校

平成26年度からスタートした「先進実践校」事業。今年度は、一関市立猿沢小学校、奥州市立前沢中学校の2校を「先進実践校」に指定し、実践的に取り組んでもらいました。2校の取組を紹介します。

### 一関市立猿沢小学校

#### 1 目標

- ・県学調、各教科の正答率県比100。
- ・県学調児童質問紙、「授業が分かる」の肯定回答90%以上。「授業が分からない」の回答0%。
- ・県学調児童質問紙、家庭学習に毎日60分以上取り組む児童60%以上、30分未満0%。

#### 2 具体的な取組

- (1) 学力向上の共有化と調査問題の分析
  - ・学力向上計画と調査結果活用レポートを基に、今年度の方向性、学校全体の取組を全職員で共有した。
  - ・諸調査の分析を全職員で行い、課題を解決するために共通実践することについて共有化を図った。
- (2) 学力の課題を視点とした授業改善の取組
  - ・ペアや小グループでの学び合いを積極的に取り入れ、自校の課題である自分の考えを書いてまとめたり、話したりする表現力の育成を図った。
  - ・授業の終わりには学習感想を書かせ、学びを振り返らせる取組を全学級で行った。
- (3) 基礎基本の定着をめざした日常実践と家庭との連携
  - ・年間8回「チャレンジテスト」、年間2回音読検定、2年生の九九検定を実施した。
  - ・年2回「がんばる子カード」により、保護者と家庭学習についての共有化を図った。

#### 3 成果

- 国語、社会で正答率県比100を達成。
- 算数における「数学的な考え」が県比105。自校の課題である表現力の育成に取り組んだ成果と考える。
- 「授業が分からない」の回答0%を達成。毎時間学習感想をノートに記述し、「分かった」を実感させた成果と考える。
- 家庭学習に毎日60分以上取り組む児童69%、30分未満0%と目標を達成。「チャレンジテスト」等の取組により、家庭学習に目的をもたせたこと、家庭と連携を図ったことが結果につながったと考える。

### 奥州市立前沢中学校

#### 1 目標

- 各教科の目標
- ・調査結果の分析を基に各教科毎に目標を設定(省略)
- 共通の目標
- ・県学調生徒質問紙において、各教科の「授業が分かる」の積極肯定回答の数値で県を上回る。

#### 2 具体的な取組

- (1) 教科の新たな取組指標の構築
  - ・H27 県学調の分析を教科毎に行い、より具体的な学力向上に結び付く目標となるよう改善を図った。
- (2) 授業改善への取組
  - ・「いわての授業づくり3つの視点」の中の「学習の見通し」と「学習の振り返り」を重視した授業づくりに全職員で取り組んだ。
  - ・「いわての授業づくり3つの視点」を基にした「授業参観カード」を作成し、授業参観、研究協議に活用した。
- (3) 学習に取り組む意識の向上をねらう取組
  - ・年4回の「フレンドシップタイム」を設定し、安心して学び合えるよう、学級の人間関係作りに取り組んだ。
  - ・毎週月曜日に生徒と教師が1対1で教育相談等を行う時間(STトークタイム)を設定した。

#### 3 成果

- 社会と理科が各教科で設定した目標を達成。
- 「授業が分かる」の積極肯定回答について、国語、英語、社会が県を上回った。
- 「いわての授業づくり3つの視点」に基づく「見通し」と「振り返り」を重視した実践を積み重ねたことで、効果的な「見通し」と「振り返り」について共有化を図ることができた。生徒の意識も全学年で向上した。
- STトークタイム、フレンドシップタイム等で培った教師と生徒、生徒同士のつながりや信頼が、学習に取り組む意識の向上に結び付いたと考える。

詳しい取組事例は、岩手県ホームページ→教育・文化→学校教育→小学校・中学校教育→平成28年度各種調査結果を活用した学力向上の取組先進実践校の取組事例 <http://www.pref.iwate.jp/kyouiku/gakkou/shouchuu/52394/index.html> に掲載されています。各学校の取組がさらに充実したものになるよう、先進実践校の取組を参考にしてください。